

マイクロ波による病院内アパレル類の殺菌効果
船津 美智子 (福岡女学院短大)

【目的】最近、細菌感染は、大きな社会問題となっており、一般的に衛生への関心も高くなっている。細菌感染で、高齢者や術後の患者にみられる院内感染の感染源の一つとしてアパレル類が考えられることから、病院用白衣の殺菌方法について実験検討を行った。現在、術後の患者のための殺菌および防菌は、室内の紫外線照射や、抗菌性の衣料品を含む医療関係品の使用および手指消毒の励行をする事等で行われているが、殺菌に長時間を要する事や、殺菌の効果等が問題と考えられている。特に、アパレル類は厚さがあることや布が重なる箇所があることから、布の表面から裏側まで殺菌効果があることが望ましい点で、難しい。そこで、白衣の殺菌方法として、マイクロ波を採用し、布の乾燥時と湿潤時、菌種、菌数を変えた場合、および、マイクロ波の照射時間を変えた場合の殺菌効果について実験検討を行った。

【方法】高圧殺菌後の白衣片(8 cmのシャーレの大きさ)に一定のブドウ球菌 *Staphylococcus aureus*、大腸菌 *Escherichia Coli*、枯草菌 *Bacillus* の菌液を浸透させたものを試料とし、5秒毎にマイクロ波照射したサンプルをL-agar培地にスタンプ後、その生菌数を調べた。

【結果】短時間照射で、布の風合いを損なわず、殺菌効果は顕著であることがわかった。